



好学愛知 自律敬愛 質実剛健

雀鳥イ言

悲しい話

生徒指導課主任 永迫 昌毅

今から書く話は少し悲しい話になるが、様々な境遇の人がいる中で、自分の過去の話も誰かのためになるかと考え、書いてみることにする。

私が小さい頃、よく母に手を引かれて親戚の家に連れて行かれた。父と母は不仲であり、父とけんかをした母は家を飛び出したのである。詳しいことは書けないが、それはそれはひどいけんかの日もあった。二人のけんかを止める為に「うそ泣き」をしたのを今でも覚えている。心の中では泣いてはいない、怒っている。家の中に平和が欲しかった。

そんな両親であったが、何とか離婚もせず、私も成長して十代後半の歳となった。家庭内が少し落ち着いてきたとき、母が体調を崩した。ある日、母の見舞いに行ったら父が家の中で泣いていた。父は医師から、母の命が「もって三ヶ月」と言われたのである。あんなにも仲が悪かったのに「少しは愛情もあったのか」と思ったが、母の命があとわずかであることには実感が湧かなかった。また、この時、頭を悩ませたのは、母に告知をすべきかということであった。家で養生している母が寝ている部屋の隣で、兄と私で鍋料理を食べたことがある。二人がおいしそうに食べる姿を見た母は、「おいしそうだね、早くよくなって食べたいな」と話しかけてきた。私は泣きそうだった。本気で泣くのをこらえていた。母は自分の病気のことを少しも分かっておらず、必ず治ると信じきっていた。「そんな人間に告知が出来るもんか」と思った。三ヶ月ほどたった夜、母が痛い痛いと言ったので、医師に連れてもらい、痛み止めにモルヒネを打った。翌朝、目が覚めて母のところに行くと、ぼかんと口を開けた母は、息を引き取っていた。こんなにも苦勞して僕らを育ててくれた母が、これから楽しみもたくさんあるうちに、どうして今、死ななければならぬのか。

今・心田を耕す・

保健体育科 城ヶ崎 祥子

あなたが、この一年を振り返って漢字一文字で表現すると何ですか？

平成最後の「今年の漢字」は「災」に決まりました。「災」が選ばれたのは二〇〇四年以来十四年ぶり二回目。北海道胆振東部地震、大阪府北部地震、島根県西部地震、西日本豪雨、台風二十一号・二十四号の直撃、記録的猛暑など、自然「災」害の脅威を痛感した一年で、「災」害の経験から全国的に防「災」意識が高まり、多くの人が自助共助の大切さを再認識した年。そのほか仮想通貨の不正流出、スポーツ界のパワハラ、財務省決裁文書改ざん、大学不正入試問題などの事件が発覚し、多くの人々がこれらの出来事を「災」や「災」と捉えました。来年に新元号を迎えることから、災害の被害減少を願う声も多かったといえます。実は私にも忘れられない「災害」に遭遇した過去があります。

平成五年八月六日。鹿児島で未曾有の大災害が起きました。百年に一度といわれる集中豪雨で、四十八人の方が亡くなった「八・六水害」です。この時、国道十号線「J R日豊本線が崖崩れで寸断され、渋滞中のドライブバーと、列車の乗客あわせて六百五十人が竜ヶ水駅前に取り残されました。前は海、後ろは崖。逃げ場はありませんでした。私は、その中にたまたま居合わせた一人でした。現在のように携帯電話もまだ普及しておらず、助けは呼べません。一人さまさまなことを考えながら雨音しか聞こえない車の中に閉じこめられていました。やがて、一人の警察官が車の列に駆け寄り連絡をくれました。

それから数年たって、父が体調を崩した。兄と私の二人の兄弟は、医師から「もって三ヶ月」と告げられた。「お袋が迎えに来たわけでもなかるうに」と思いつつながら病室の父の顔を見に行く父、顔色は悪いものの、いつもと変らぬ父の姿があった。その時どんな会話をしたかはよく覚えていないのだが、父とはあまり腹を割って話す間柄でもなかったのだ。当たり障りのない会話をしたのだと思う。ただ、「告知はしない」と決めていたし、父も自分の病気については何も語らなかつた。おそらく自分の病のことには気付いていたのだらう。そして、それから約三ヶ月後、父は病院で亡くなった。私の教員採用試験の一週間前のことだった。



まさか、二十代半ばにして両親が亡くなると思ってもみなかった。父が亡くなった年の教員採用試験に合格したが、一番喜んでくれたであろう両親はもういない。その事が本当に悲しかった。またその頃、死んだ両親の人生についてよく考えた。若い頃の話をあまり聞かなくなつたが、どんな人生を歩んできたのだろうか。孫の顔も見ずに亡くなってしまったか。悔いもあつたことと思う。命の大切さなど大切さ。言うまでもないことなのだが、両親の死は、私に強烈にそのことを教えてくれた。亡くなった頃の両親の歳に徐々に近づいている自分、後何年生きられるのだろうか。「その日」の覚悟を持って、日々大切に生きるしかあるまい。

ず、暗闇から聞こえる凄まじい山鳴りと豪雨に、生まれて初めて「自然」の恐ろしさ「死」への恐怖を感じました。夜の十一時頃、待ちに待った救助隊が来てくれました。始末方面へ歩いて避難する方法が指示されました。ひとりぼっちだった私に、「一緒に行きましょう」と声をかけてくださいました。見ず知らずの近くにいた車の家族でした。その一言が、不安と恐怖の中にいた私にとってどれ程うれしく、何よりありがたかつたことか。その時のことは今でも鮮明に覚えています。線路によじ登り、土石流後の足場の悪い中を泥まみれになりながら、みんなで手と手を取り合いやつの思いで始末まで到着しました。自宅に帰ると、何十件もの留守番電話の履歴が残っていました。両親からの着信でした。連絡が取れない娘を心配してのことだったのでしよう。涙がはじめてあふれ出て「生きています」そう心から思いました。

教員になって二年目に起きたこの経験は、その後の私の人生観を変える大きなものとなり「生きていくことのすばらしさ」と「人は助け合って生きていく」ことを改めて深く感じたものです。さて、今年も残りわずかとなりました。来年はどのような年になるでしょうか。二〇一九年は六十年に一度の「己亥」（つちのとい）。「己」は、五行説（木・火・土・金・水）で表すと「土」、支の「亥（いのしし）」は「水」になるそうです。来年は、土と水が組み合わさった年。「土」に種を蒔き「水」をやり花や実を育てる。そんなことを、想像しました。

また、これらから伝典の中の「心田耕す」という故事を私は思い起こします。ある日、弟子たちと托鉢に出かけられたお釈迦様に、一人の農夫が尋ねます。「私は田を耕し、種を蒔き作物を育てて食物を手に入れます。お釈迦様は、田を耕さないのですか。」と。するとお釈迦様は、「私もまた、人の心という田（心田）に信という種を蒔いている。」とおっしゃったのです。では、その「心田を耕す」とは誰なのか、ということ。加えて、気づかされるのは、花や実を得るためには、田を

耕し種を蒔き水をやるだけではないということ。多くの肥料をやり、雑草や害虫を除き、いくつもの手間隙をかけることが必要であるということ。人の心（心田）もまた同じく、自ら耕し種を蒔き水をやり生えてきた雑草を抜きとり粘り強く耕し続けること。それが、自らの心の成長（思いやり・温かい心・柔軟な心）や本校に受け継がれる For their の精神にも繋がると考えます。高校生期は、心も体も大きく成長する時です。自らの心田を耕すのは、自分しかないのです。みなさんが生かされている命に感謝し、仲間を支え、仲間を支えられることで大きな困難を乗り越えることができることを強く信じ、願っています。

各Rの誇りをかけた熱き闘い 後期クラスマッチ



十一月三十日、後期中間調査終了の翌日、それまでの緊張を一気に解くような秋晴れの好天の下、一・二年生による後期クラスマッチが開催されました。各Rの意地と誇りをかけて熱戦が繰り広げられました。各種目および総合順位は次の通りでした。

1 月		食	休	業
1	元日 閉庁	x		
2	水 閉庁	x	冬	
3	木 閉庁	x	季	
4	金 3年センタープレ	x	休	
5	土 3年センタープレ	x	業	
6	日 3年センタープレ	x	日	
7	月 3年センタープレ	x		
8	火 授業開始日 第7回職員会議	o		
9	水 1・2年実力考査(1日目)	o		
10	木 1・2年実力考査(2日目) 学校安全の日	o		
11	金	o		
12	土	x		
13	日	x		
14	月 成人の日	x		
15	火 スクールカウンセリング	o	教	
16	水	o	育	
17	木	o	相	
18	金	o	談	
19	土 センター試験(1日目) 悠学講座⑦	x	(平	
20	日 センター試験(2日目)	x	常	
21	月 学年朝会 センター自己採点	o	授	
22	火 3年特別授業開始	o	業)	
23	水	o		
24	木	o		
25	金	o		
26	土 2年進研模試 1年学研ハイレベル模試	x		
27	日 2年進研模試	x		
28	月 全校朝会 スクールカウンセリング	o		
29	火	o		
30	水 第8回職員会議	o		
31	木	o		

種目	優勝	2位	3位
〔総合順位〕	23R	28R	26R
〔男子バレー〕	23R	28R	26R
〔男子バスケットボール〕	23R	26R	22R-A
〔女子バスケットボール〕	13R	23R	28R
〔サッカー〕	23R	21R	27R
〔ドッジボール〕	16R	21R	12R
〔卓球〕	24R	17R	15R